

岸和田市立産業高等学校の教育について

1. はじめに

平成の時代は、モバイル機器の進化にあわせて高度情報化社会が世界規模ですすみ、産業構造の変化や雇用の多様化、海外への市場拡大、少子高齢化の進行など、社会全体が大きく変化しました。さらに、最近ではディープラーニングによる人工知能（AI）の目覚ましい進化は、今後の人間の働き方にも大きく影響を及ぼすとも言われています。

これからの専門教育は、ロボットや人工知能などの導入によるさらなる産業構造・就業構造の変化やそれに伴う労働のあり方などを見極めつつ、時代や地域に即したキャリア教育を推進することにより、生徒自身が将来的にも社会の変化に対応し、自立して生きていくことができるように育成していくことが求められています。

岸和田市立産業高等学校においては、特色ある3学科を有する専門高校として以前より職業教育に取り組んでおりますが、このような経済・社会の変化に伴い職業教育におけるより実践的な知識や技能の習得及び高度化が求められています。

また、高校3年間で即戦力となる人材育成を目指す教育のみならず、高大接続改革に伴う大学等の高等教育機関との円滑な接続も視野に、今後の社会の変化にも対応し産業界の将来を担う優秀な人材育成という目的達成に向けた岸和田市立産業高等学校の職業教育のあり方について検討をしていきたいと考えます。

2. 創立110年を超える歴史と伝統を継承し、さらなる発展に向けて

岸和田市立産業高等学校は、明治40年（1907年）に思成会附属私立岸和田実業補習学校として創立され110年を超える歴史と伝統があります。

また、大正9年には当時の岸和田町に移管され公立学校となり、さらに昭和10年には岸和田市立商業学校として泉州地域に皆無であった商業教育機関へと再編され、今日に至るまで泉州地域を中心に多くの人材を輩出してきました。

現在でも、本市における唯一の市立高校として、また泉州地域においても類のない特色ある3学科（商業科・情報科・デザインシステム科）を有する専門高校として充実した進路指導に加えて地域連携にも取り組んでいます。

しかしながら、時代の流れとともに商業教育に対するニーズが変化し、全国的にも様々な商業科の学科改編も行われ、商業教育で培った知識や

資格、技能を実社会で活用できるレベルまで高める取り組みが進んでいます。

また、告示されています高等学校学習指導要領解説（商業編）では、「商業科が育成を目指す職業人としては、例えば、流通業、金融業等を担う人材、製造業、サービス業等様々な業種における販売、仕入、営業、マーケティング、企画、人事、経理、原価管理、情報等の部門に関わる職の担当者などが挙げられる。さらに、商業の学びを継続するなどして公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー、旅行業務取扱管理者等の資格職に就くこと及び商業の学びを基盤として経験を積み管理的立場の職に就くことも目指している。」とあります。また、全国商業教育研究大会において「商業が育成を目指す職業人について、商業は守備範囲の広さに特色があり、業にもつながるが職にもつながり、経験を積めば管理職的立場にも就くことが出来る」（文部科学省産業教育振興室の西村調査官）との講評もされていました。

こうした状況の下、岸和田市立産業高等学校では商業に関する学科を有する高校として簿記や情報処理など商業教育の基幹科目も大切にしながら、実践的ビジネス教育を取り入れた即戦力人材の育成に取り組むことが喫緊の課題であると考えます。

また、デザインシステム科が属する工業の新学習指導要領解説においては、「ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す」とあり、ここに言う資質・能力とは「製品などが社会に及ぼす影響に責任を持ち、物づくりを通じて地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を意味している」と記載されています。

現在、デザインシステム科では、地域企業や岸和田市からのご依頼、あるいは地域連携の中で各種デザイン作品を校外に提供する過程において、少しずつ上記の責任感や資質・能力の向上が図られていますが、さらに広がりのある地域連携へと歩みを進めながら、各種デザイン制作を通じて高度な資質・能力の育成を目指す必要があると考えます。

一方、定時制は勤労青少年に高等学校教育を受ける機会を広く与えるために昭和23年に制度化され、本校定時制からも多くの勤労青少年が商業に関する知識や技能を身につけて卒業し、地域社会で活躍しました。しかしながら、昨今は通信制教育など社会全体における若者の学習方法の多様化に伴い、近代では学びのセーフティーネットとして位置づけられていた定時制への志願者が急減しています。

このような状況を踏まえ、岸和田市立産業高等学校定時制においても入学してくる生徒のニーズも勘案しながら改善に取り組むことが課題であると考えます。

3. 今後の教育の内容について

平成12年に商業科(2クラス)を新学科として情報科に改編しました。岸和田市立産業高等学校の商業科・情報科はともに商業に関する学科であり、両科の専門性を高めるために授業で取り扱う商業科目を区別化し、1年生からの異なるカリキュラムにより特色化を図ってきました。情報科については、現在においても一定の評価を得ています。

またデザインシステム科は、平成元年に出された岸和田市産業教育審議会答申に基づき平成3年に繊維工芸科を改編した学科で、約30年という年月が過ぎましたが、途中、学習スタイルについてプロダクト系とテキスタイル系という2系列型であったものを4分野(プロダクト・テキスタイル・スペース・ビジュアル)から2年次には2分野を選択し、さらに3年次に1分野を選択するピラミッド型へと改編し、地域との連携も進めたことにより情報科同様一定の評価を得ている状況であります。

したがって、今回の教育計画の策定にあたっては

「商業教育のさらなる特色づくりと実践的ビジネス教育の策定」を基本方針として、具体的には以下のようなことに取り組みます。

① 特色ある産業教育の推進

- ・現商業科の一部の学科改編を行い、商業教育における新たな学科の創設を目指します。
- ・新たな学科の創設に合わせて、商業科・情報科の科名変更を行うとともに学校設定科目の導入により、さらに特色ある教育課程の編成を目指します。

② キャリア教育の視点に立った就職指導

- ・地域や企業との連携による実践的ビジネス教育

(新学科)

- ・上級資格の取得などを通じて社会のニーズに応える即戦力となる高度な知識や技能を身につけ、さらに社会における実践的活用能力を併せ持つ人材の育成教育

(新たな科名となる商業科・情報科)

③ 高大接続改革に対応した進学指導

- ・岸和田市立産業高等学校で身につけた高度な専門性や実践力を高

等教育機関へと接続させる進学指導

- ・平成33年度入試から始まる高大接続改革に対応した進学指導

4. その他の課題

(1) 入学者選抜方法の改善について

新学科は、商業教育のイメージを大きく刷新できる教育課程を目指し、入学者選抜においても実技や面接等を伴う特別入学者選抜での実施を視野に検討を行います。

(2) 定時制のあり方について

岸和田市立産業高等学校定時制課程においては、創立以来、勤労学生を支援し、また商業教育を通じて卒業後に活かすことの出来る検定資格の取得により、就職という進路実現を力強くサポートしてきました。そして、定時制からも多くの人材を輩出し、本市の産業教育の発展に大きく寄与してきました。しかしながら少子化に加えて通信制教育などのセーフティネットシステムが中学生の多様化とリンクするとともに私立高校に対する授業料の無償化も重なり、定時制課程を志望する中学生も減少傾向にあります。

本校定時制においては、泉州地域唯一の商業教育を学ぶことのできる定時制というコンセプトをさらに高めるために、現状の商業教育の中で情報処理に重点を置いたビジネス教育の策定も図りたいと考えます。